

大学図書館における学習支援サービス

利用者とともに作る学習支援のかたち

呑海沙織 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)
donkai@slis.tsukuba.ac.jp

1. 自己紹介

2. 利用者と大学図書館の関係性の変化¹

第一段階：利用者のニーズが未分化の段階

第二段階：利用者のニーズが多様化する段階

第三段階：利用者のニーズが曖昧化する段階

第四段階：利用者と図書館が相互に影響を与え合いながら、新しいニーズを創出する段階

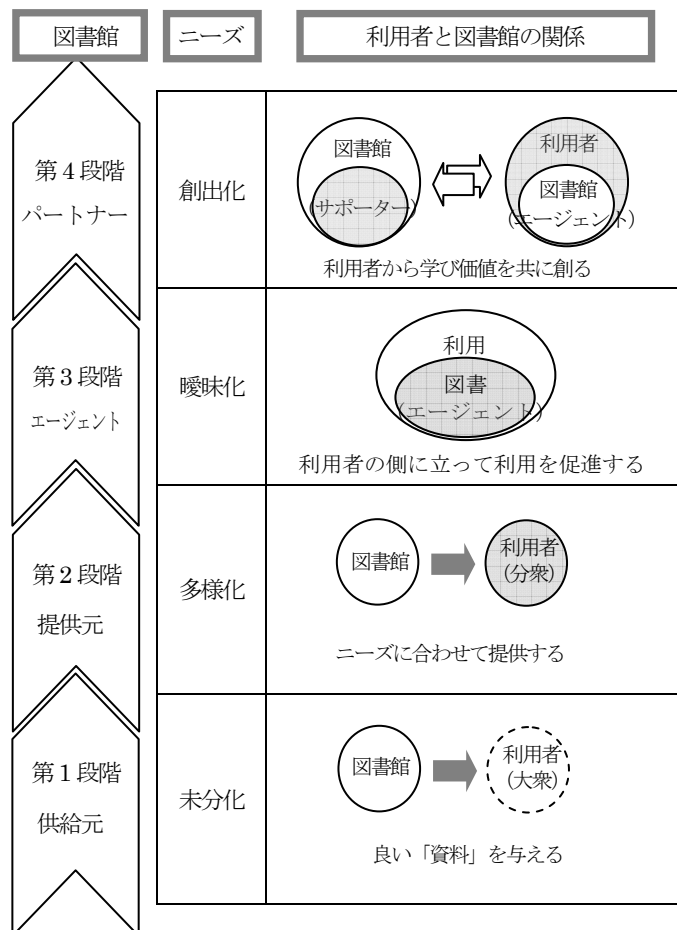


図 利用者と図書館の関係性の変化と利用類型

(図1-1)関係性の変化 (アクセンチュア[編]『CRM: 顧客はそこにいる』東洋経済新聞社, 2001) より作成

¹ 呑海沙織 「利用者志向の図書館サービス：変化する利用者と図書館の関係性」『図書館雑誌』99 (11), 2005.11, pp. 784-785

3. 利用者とともに作る学習支援のかたち

3.1. 図書館に学生をひきつける

3.1.1. パブリック・リレーションズ

- ・ Public relations ≠ PR (ピーアール) ≠ 広報
- ・ 20世紀はじめから米国で発展した「組織」と「パブリック」の関係に関する考え方および、行動のあり方
- ・ パブリック・リレーションズ類型



- ① 新聞広告およびパブリシティ
- ② 公共広告 (パブリック・インフォメーション)
- ③ 双方向非対称モデル
- ④ 双方向対称モデル

一方向モデルから双方向モデルへ、非対称モデルから対称モデルへ

3.1.2. マスコット・キャラクター戦略

【例】和光大学附属梅根記念図書・情報館によるマスコット・キャラクター戦略²

- 1) イベント化
- 2) 短周期化
- 3) 他の取組みとの連動
- 4) その他

3.2. 学生とともに学習支援サービスを提供する

3.2.1. 選書と書架レイアウト

【例】和光大学附属梅根記念図書・情報館による“Let's Read Project”

「本を読むということ、その醍醐味をほかの誰かと分かち合うということ、図書館という空間をまるごと味わうということ」³を目的とした、図書館と学生によるプロジェクト

² 呑海沙織「パブリック・リレーションズ戦略の実際：マスコット・キャラクターと選書ツアー」『情報管理』52(6), 2009.9, pp.370-374

³ 和光大学附属梅根記念図書・情報館「Let's Read Project とは」
http://www.wako.ac.jp/library/about/lrp/lrp_menu.html

3.2.2. ラーニング・コモンズ

1) ラーニング・コモンズとは

「学生が自主的に問題解決を行い、自分の知見を加えて発信するという学習活動全般を支援するための施設とサービス・資料を提供する必要」⁴から設置されたもの

2) ラーニング・コモンズとインフォメーション・コモンズ

- ・ 人的支援が充実している場合にラーニング・コモンズ⁵
- ・ 情報通信技術の活用に重点がおかれている場合にインフォメーション・コモンズ
- ・ 内容ではなく、設置する機関の意向⁶や組織戦略などによって

3) ラーニング・コモンズの背景

- ・ 情報通信技術の発展
- ・ 学習・教育・研究資料のデジタル化・ネットワーク化
- ・ 教育・学習方法の転換

4) ラーニング・コモンズの要素⁷

A. 施設・設備と資料

- ① 学習の場：グループ学習室，PC学習スペース，プレゼン・スペース，コースウェア
- ② 教育の場：PC教室，プレゼン・スペース，図書館資料
- ③ 生活の場：ラウンジ，カフェ・食堂，自動販売機，ショップ，オープンスペース

B. サービス

- ① 学習活動支援：レファレンス，ICT支援，学習アドバイス，ライティング支援
- ② 教育活動支援：授業，講習会，ICT支援
- ③ 生活関連支援：オープンスペース（サークル活動，地域交流活動）

5) 学生による学生のための人的支援

- ・ 学生によるラーニング・コモンズにおける人的支援
- ・ チューターとして，先輩として，アルバイトとして

【例】お茶の水女子大学の“LiSA：Library Student Assistant”

お茶の水女子大学附属図書館 LiSA 活動日誌

<http://ochadailisa.blog32.fc2.com/>

⁴ 米澤誠「インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ」『カレントアウェアネス』289, 2006, pp.9-12

⁵ 『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書：教育と情報の基盤としての図書館』国立大学法人筑波大学, 2007, pp.9-12

⁶ 永田治樹「大学図書館における新しい『場』：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ」『名古屋大学附属図書館研究年報』7, 2009, pp.3-14

⁷ 米澤誠「ラーニング・コモンズの本質：ICT時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館」『名古屋大学附属図書館研究年報』7, 2009, pp.35-45